



杉原寛信使徒座管理区長認可発行所 福岡司教区本部 福岡市中央区浄水通6-28 発行人 カトリック福岡司教区 編集人 下町豊重 TEL 092-522-4059 FAX 092-523-2152 振替口座 01760-6-20729 カトリック福岡司教区 定価 一部70円

11月の意向
教皇様の意向のために祈りましょう
【世界共通】近東での対話と和解
【日本の教会】世を去った人々とその遺族

多文化、多国籍共存の社会の中で

教区内の全司祭による研修会が熊本県南関のホテルで行われた。今年「多文化、多国籍共存の社会の中で教会は」をテーマに、外国人の対応に精通する講師に話してもらい、教会として、どのように接すべきかを研修した。



講師の高木神父(右)と大迫氏(左)の話を耳を傾ける司祭団

やフイリピン人が増え続ける中で、司牧者として何が出来るか、心得ておくべきことは何か、教区として取り組めることがあるかなどに主眼点が置かれた。

10月15日(火)から17日(木)まで行われた教区内司祭研修会。今回は、多文化、多国籍共存の社会となっていく中で、小教区のミサにおいても外国人、特にベトナム人

初めに、神の導きを願って「み言葉の祭儀」が行われた。続いてCTIC(カトリック東京国際センター)の高木健次神父(東京教区司祭)と大迫くすえ氏(同教区信徒)による講話があった。

まず、高木神父は、CTICの設立の目的と経緯を話した。そして、「東京教区内で必要に駆られて創設されたセ

ンターには外国人に関するいろいろな問題が殺到する。センターに丸投げしている風潮に違和感があるが、大切なのは個々の教会に寄せられる問題を教会がまず受け留めること。つまり、相手に誠実さと忍耐をもって耳を傾けること。それから、対応出来ること、出来ないことを判断し、対処していくよう努力することである。また、同じカトリック者として、特に「人権」を基本において関わっていくことが大事」と熱く語り、並んで立った大迫氏は、「言語と文化と宗教と習慣が異なる外国人が日本で生活するのは大変なこと。私たちは他人事としてではなく、同じ『信仰』を有するカトリック者として温かく迎え、教会の中でも生き甲斐を持てるように配慮し

てあげることが必要。また、種々の公益団体と肩を並べる必要はなく、一人ひとりが抱えていることに心を寄せることが大切」と力説した。

「多文化、多国籍共存の社会の中で教会は」を題に語る司祭団の話には、対外国人への司牧の面で、大いに刺激になるものがあった。

翌日も両講師が演壇に立ち、「入管法の問題や改正点などを詳しく話した。その後の司祭団の分科会では、「温かい父の心を持って接していくことの大切さを痛感した。積極的に近づいて挨拶したり、登録してもらったりして、相手の居場所を作ってあげたい」「教会の中で共感、共有できるようにし、関わりを持たせることも大事」「外国人が集え、諸問題を話し合う場を設けさせたい」など、司牧者としての感想を寄せた。更には、「教区レベルで対外国人担当者として司祭や修道者が立てられるべきである」などの意見も出た。

最終日は、全体会があり、各種委員会からの報告が行われ、感謝のミサで研修会が閉じられた。司祭団は昼食を共にして、三々五々司牧・宣教の地へと戻って行った。

フランシスコ教皇来日日程

11月23日から予定されている教皇フランシスコの日本訪問日程が、10月2日(水)午後5時(日本時間)にパチカンより正式に発表された。詳細は教皇来日特設サイト(popeinjapan2019.jp)に掲載。下記は主要日程の抜粋。

2019年11月23日(土) バンコク-東京
17:40 東京国際空港(羽田空港)到着
空港にて歓迎式、ローマ教皇庁大使館にて司教との集い

2019年11月24日(日) 東京-長崎-広島-東京
09:20 長崎空港 到着
長崎爆心地公園にて核兵器に関するメッセージ、日本二十六聖人殉教者への表敬、西坂公園・殉教の記念碑にて教皇の挨拶、長崎県営野球場にてミサ(教皇の説教)、航空機にて広島へ
17:45 広島空港 到着
広島平和記念公園にて平和のための集い(教皇のメッセージ)、航空機にて東京へ

2019年11月25日(月) 東京
東日本大震災被災者との集い、皇居にて天皇陛下との御会見、東京カテドラル聖マリア大聖堂にて青年との集い、東京ドームにてミサ(教皇の説教)、官邸にて首相との会談・要人および外交団等との集い

2019年11月26日(火) 東京-ローマ
イエズス会員とのプライベートなミサ、イエズス会の病気・高齢の司祭を訪問、上智大学への訪問(教皇の講話)、東京国際空港(羽田空港)にて別れの式、11:35 航空機にてローマへ

カリタスジャパン 台風19号災害募金・支援活動開始

台風19号災害によって犠牲となられた方、被災者の皆さまのために祈りいたします。カリタスジャパンで募金活動が開始されています。また、カリタス南三陸、カリタス南相馬でボランティア受け入れを開始しています。詳細は⇒ <https://www.caritas.jp/>

教皇来日記念企画展がカテドラルで開幕

教区民の一致の力で福音宣教

10月19日(土)12時、ローマ教皇来日記念企画展「いつくしみと憐れみの人」教皇フランシスコ」が幕を開けた。会場は、カテドラル大名町教会。教皇フランシスコの来日を機に、キリストの福音に従って行動し、自ら人々のもとに出向き、様々の理由で社会の辺境に追いやられた人に寄り添うフランシスコ教皇のメッセージと活動を多くの人に知ってもらいたいと準備された。

企画展ではフランシスコ教皇の歩みやメッセージを紹介するオリジナルパネル(英語、韓国語、ベトナム語の翻訳付)、教皇直筆の手紙(複写)、1981年の聖ヨハネ・パウロ2世教皇来日の折の記念品、当時の新聞記事、等が展示されている。また、同じ会場で「アシジの聖フランシスコと聖クララの道」と題した油絵と版画の作品展も開催。12時から行われた開会式典では、台風19号による被災者へ心を寄せる祈りから始まり、駐日教皇大使ジョセフ・

教皇来日記念企画展

入場無料FREE 10月19日~12月3日
開館時間 12時~17時 ※水曜休み(金曜日は20時まで)
会場 カトリック大名町教会

フランシスコ教皇直筆の手紙(複写)も展示。ご家族、友人、知人を誘ってお出かけください。

時の話題

死者の月に思う

「行つてきます」「行つてらっしゃい」。毎日繰り返す光景です。この先には、「たいたいお帰らない」「待っている。しかし、それは決して当たり前のことではない」ということを、東日本大震災をはじめ、災害など繰り返して経験しています。

1年前、義妹が突然天に召されました。「行つてらっしゃい」といつものように朝家族に挨拶したそうなのに。冷たくなった亡骸の前で心から祈りました。何度も死者をよみがえらせたイエス様、まだ成人していない子どもを残してそちらに引き取ることなんてしないでください、甦らせてください、と。もちろん何も起こりません。神様はいるのかと激しく自問しました。

死を前にして、私たちは無力です。でも、それでも、確かなことがありません。それは、永遠の別れではなく、再び会えるということ。いつかはわかりません。でも、場所はどこでもありません。天国で、神様のそばです。だから、悲しみだけでなく、再会の時までがんばろうと前を向いていけるし、亡くなった人のためにも祈ることができる。やはり、神様の存在は慰めと希望の源となります。

死者の月、亡くなったすべての人のために特別に祈ります。でも、いつかは自分も祈ってもらう番になる。かけがえのない「今」を生きたら、この「今」の積み重なりが人生となり、永遠となっていくます。単なる地上的なつながりや価値観でない、神様を中心とした信仰を生きること。死者の月は死者のためだけでなく、自分の信仰生活を見つめ直す機会でもあると思います。

大牟田教会主任 田中重治神父

開幕に先立ち、10時半から、期間中の会場案内を務めるボランティアへの説明会が行われた。ボランティア登録者は信者が約80人、シスターが約30人。説明会には福岡市内、北九州、佐賀などの小教区から80人以上が参加した。参加したボランティアの一人は、「宣教地に派遣される気持ちです」と顔を輝かせていた。同日13時半から行われた片柳弘史神父(イエズス会)の開幕記念講演会には約170人が来場した。

日本宣教の保護者である聖フランシスコ・ザビエルの祝日、12月3日までの40日間(水曜日休)開催される。

チェノットウ大司教の祝辞が披露された。大使は「企画展の開催を嬉しく思う。成功をお祈りします」と述べ、福岡教区民が宣教の使命を生きるよう励ますメッセージとなっている。続いて福岡教区使徒座管理者の杉原寛信神父が「教区民の一致の力で開催されるこの企画展が、神と人との出会いへ繋がることを祈りたい」と挨拶した。

▼人は神からいただいた力を使って自由自在に動く。いつしか、欲望を満たすためなら、周りの人のことも考えようとしないう「さもしい」人になってしまふ。食欲になり、傲慢に陥り、世界は自分のためにあるような気にもなる。そんな時には上からの恵みを忘れ、「神と人の喜びのために使う力」を自分の満足のためだけに使おうとしている自分に気付けない。ついには、悪の誘惑に負け、神の目からも周囲の目からも見えないような暗闇の世界に入ってしまう。「どんな貪欲にも注意しなさい。今夜、命が取り上げられたら、貯えたものは誰のものになるのか」と主は言われる(ルカ12章参照)。(S)

みちくさ

「ある暖かい朝、一匹のクモが茨(いばら)の茂みに降りて来ました。そこに立派な大きな巣を張り、それを自分が降りて来た糸で固定しました。巣はたくさん、虫を捕え、クモはまるまると肥っていききました。数か月過ぎたある日、クモは大変不機嫌になりました。巣には一匹の虫もかかっていなかったのです。それぞれの糸はちゃんと目的は果たしていますが、それでもクモの不機嫌さは治りません。突然、上の方に伸びている奇妙な糸を見つけた。クモは赤ちゃんだった時にその糸を使って降りてきたことや、その糸が巣を張るのに大変重要だったのをすっかり忘れていました。クモは不可解なその糸を凶暴なひと噛みで断ち切ってしまう。『消えてなくなれ!』その途端、あれほどの立派な巣が壊れ、クモは転落しました。気が付いてみると、クモは茂みの葉の間に落ちていました。」

北九州小倉で殉教400年記念祭 殉教者の心と姿勢を受け継ぐ



小倉教会にて行われた殉教記念ミサ

10月14日(月・祝)カトリック小倉教会にて、1619年10月15日に殉教された小倉のデイエゴ加賀山準人、日出のバルタザール加賀山半左衛門と息子デイエゴの殉教400年の記念祭が行われた。参加者は司祭、神学生含む約270人であった。

10時から来住英俊神父(御受難修道会)による「殉教者の血は、キリスト者の種である」をテーマに講演を行い、教会2000年に渡る歴史の中で流し続けられてきた殉教者の血が、この日本という東洋の島国に生きるカトリック信者の種となつていく事に感謝すると共に、殉教者の流した血は、どういふ意味でその後に続くキリスト信者の種になつたのかを語られた。



使徒的勧告『喜ぶに喜べ』

信じる喜びから伝える喜びへ⑧ 義のために迫害される人々は、幸い

「喜ぶに喜べ」(90-94)

教皇フランシスコの使徒的勧告『喜ぶに喜べ』の言葉を讀みましょう。
「まさにイエスご自身が、この道は時流に逆行している、私たちが生き方として異議を唱える人、煩わしい存在にまでしてしまうほどであると強調しています。」(90)

「福音を生きたる上で、すべからず、喜びを伝える喜びへ」(91)
「愛のおきてや正義の道を生きたる上で耐えている重荷や苦悩という十字架は、成熟と聖化の源です。」(92)
「口ごとの福音の道、それにより苦しめられることになつても受け入れること、それが聖であるということだ。」(94)
真福八端の中で、第1と第8には同じ文章が記されています。「天の国はその人たちのものである」という言葉です。つまり、義のために迫害されている人々にも、心の貧

しい人々のためにも、同じ約束が与えられているのです。第8の至福は、イエスの言葉の裏りと願わくとして味わうことができると思います。
山上の説教の中で、真福八端はイエスの宣教の中心でありながら、イエスのみ顔の反映そのものです。したがって、この言葉は、道徳的な教えよりも、イエスの自己紹介(身分証明書)として受け入れたらいいと思います。
◆受肉に伴う貧しさから御父のみ旨に頼るイエス
◆悲しむ人々の同伴者
◆十字架を担った柔和な神のしもべ
◆義に飢え渴く人類の心になり切ったナザレのイエス
◆罪びとに憐れみを示した救世主(聖ザベリオ宣教会/帯山教区主任)

迫害と殉教時代における福音理解



講師の澤田神父

10月20日(日)、14時から大名町教会聖堂において、聖パウロ聖書センター協賛により、澤田豊成師(聖パウロ修道会司祭)による講演会が開かれた。広く福岡教区各教会から60人ほどの信徒が集まり、「迫害と殉教時代における福音理解」というテーマで語られる講話に耳を傾けた。澤田師は次のように語った。
福音宣教の時代、パウロは「迫害する者の上に祝福を願いなさい」(ローマ12章14節)と語った。これはマルコ・マ

タイ・ルカの共観福音書でも同じである。しかし、ローマ帝国内で迫害が始まった1世紀末、ヨハネ福音書は「互いに愛し合いなさい」(13章34節)と言つても、「敵を愛しなさい」とは書いていない。日本のキリスト教の時代、宣教師たちを突き動かしたのは「敵をも愛する」福音精神であり、日本二十六聖人の殉教もその中であつた。しかし、迫害が徹底するようになると、教会共同体は信仰を守ることを第一とし、ヨハネ福音書のメッセージが強くなつた。今日、対立・分裂の時代において、殉教者に学ぶとはどういうことか。
また、澤田師は「教皇フランシスコが『外に出ていくこと』『貧しい人のための貧しい教会であること』を強調する中で、私たちがすべての人に祝福を願う宣教的な教会として成長していくことが大切だ。そのためには聖書を読み、殉教者に学ぶことができればと思う」と述べた。

では1年前から祈りと分かち合いを通して心をひとつにして、感謝と賛美のうちに殉教400年記念祭を終えた。
(報告)黒崎教会 宮本精彦

全世界に行つて、福音を述べ伝えなさい



参考文献を紹介するフランコ神父

10月6日(日)、大名町教会にて、フランコ・ソットコロノラ神父(真命山・諸宗教対話センター主宰/聖ザベリオ宣教会)の「諸宗教対話」について講演が行われた。
師は、これまでに教皇庁が、特に二人の教皇、聖パウロVI世と聖ヨハネ・パウロII世がどのように回勅や文書を通じて諸宗教対話を促し、アッシジにおける学術的会議や諸宗教代表者を共にした平和祈禱会により対話を進めてきたかを詳しく、分かりやすく話し、日本のカトリック中央協議会の努力、大阪教区、福岡教区の協力、そしてカルメル会の

教会にいて、二十六聖人のことをもっと知りたいと思う。殉教者の強い気持ちはどのような状況で育まれたのか」という問いがあつた。「当時はカテキズムと司祭を通して聖書の本質が伝わつた。今は聖書を読んでも本質を掴んでいない」との答えに、余韻の残る講演会であつた。
(報告)西新教会 木本敬子

ベトナム語版発行

近年、主日のミサに参加するベトナム人が増加している。これにちなみ、オリエンタル研究所は、ミサで用いられる会衆用ミサリーフレット「聖書と典札」のベトナム語版を、2019年12月1日号から発行する。
申し込みは同研究所のホームページ(https://www.oriental.or.jp)にある申込書を使ってFAXで。

「神のみことばの主日」

教皇が制定、年間第3主日に
教皇フランシスコは、9月30日、聖ヒエロニモ司祭教会博士の記念日に、自発教令「アペリト・イツリス」(「開かれた」)を公布し、典札の年間第3主日を「神のみことばの主日」とすることを制定した。「アペリト・イツリス」は、イエスが復活後弟子たちに現れ、「聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いた」(ルカ24章25節)からとられている。
教皇は、この主日を、神のみことばを祝い、黙想し、広める日とするよう勧め、またユダヤ教徒との絆を強め、キリスト者の一致を祈る時期にあることを指摘している。

計報

テレジア 尾山タカヨ修道女
(マリアの宣教師フランシスコ修道会)
10月7日に帰天。享年99。

11月24日(日)は教皇ミサが長崎で行われるため、小教区によっては日曜日にミサを行わないところがあります。前晩の23日(土)に行われるところが多いようですが、24日(日)にミサが行われる教会とミサ時間は下記の通りです。

11月24日(日)のミサ時間

【福岡地区】	大名町 7時、9時半	浄水通 9時
	西新 7時	古賀 9時半
	高宮 7時	
	大楠 7時	
【北九州地区】	小倉 6時半、9時	黒崎 9時半
	天神町 8時	門司 9時半
	水巻 9時半	飯塚 9時
	湯川 9時	
【筑後地区】	今村 10時	本郷 8時
	二日市 6時半	
【佐賀地区】	松島 15時	馬渡島 8時
	伊万里 9時半	
	佐賀(口ザリオ修道院) 6時	
【熊本地区】	手取 10時	玉名 11時
	人吉 9時	八代 11時
	崎津 7時半	

(10月21日現在の情報)

【講演会・研修会・黙想会のお知らせ】 講師・指導司祭：来住英俊神父(御受難修道会)

11月3日(日)～4日(月) 研修会「カトリックの死生観」

11月23日(土)14～16時 講演会「謝る」ということ(於：ザビエル聖堂、入場無料)

12月7日(土)～8日(日) 待降節黙想会「イエスはすでに共におられる」

◆研修会と黙想会は参加費10,000円、定員15人、要申込、切は開催一週間前

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222(9:30～16:30)
Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokusou@fokusou.com

ミサ用ワイン

ヴァノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)

ご用命 お問い合わせは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。

木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

明光学園(大牟田市)ハンドボール部 おめでとう、高校三冠達成!

福岡県大牟田市のカトリック校、明光学園高等学校のハンドボール部が高校三冠を達成。喜びの声を同高校3年の村上楓さんに寄せてもらった。

私たち明光学園ハンドボール部は、春の選抜大会、夏のインターハイ、そして先日行われた国体で優勝し、高校三冠を達成することができました。私たちは昨年の10月、新チームになってから「三冠」という目標を立て、毎日練習に取り組んできました。辛いことも沢山ありましたが、チームのみんなで励ましあい、周りの沢山の方々に支えられ乗り越えることができました。春の選抜大会では、初出場の大会ということで緊張もありましたが、自分たちの強さを見せ優勝でき、とてもいい経験になりました。

夏のインターハイでは、春の優勝からのプレッシャーや追われる身としてのプレッシャーもあり苦しい試合が続きましたが、粘りを見せ優勝することができました。そして、国体では高校三年間の集大成なので全力でハンドボールを楽しもうという気持ちで、全員で大会に臨みました。インターハイの時よりもさらに厳しい試合が続きましたが、苦しい時にこそ全員で楽しみ優勝することができました。

高校三冠を達成し、また国体を通して私たちはたくさんの方々に支えられていることを改めて実感しました。学校の先生方、先生方が遠い会場まで足を運んでくださり、応援して頂いたことがいつも私たちの力になりました。また大会の運営をいただいたスタッフの方々、あのような素晴らしい環境でハンドボールができたこと私たちは幸せだと思います。本当にありがとうございました。

今回の三冠は私たちだけで勝ち取ったものではなく、周りの方々の支えや応援のおかげで勝ち取ったものです。本当にありがとうございました。これからも応援よろしくをお願いします。(ハンドボール部副キャプテン 村上 楓)



熊本地区宣教司牧評議会研修会 大人の為の研修会 教皇を迎えよう

10月14日(月・祝)、手取教会信徒会館ホールにて熊本地区宣教司牧評議会主催の「大人の為の研修会」が開催された。講師はサレジオ会の阿部仲麻呂神父。師は、今回のテーマ「フランシスコ教皇を迎えよう」について熱く語った。

当日は100人を超える参加者が集った。初めに、フランシスコ教皇の紹介DVDを鑑賞し、その後の講話は3つに分けて行われた。

①7年の苦闘。キリストへの目覚め、十字架、日本宣教の夢(1953-1959年、16歳、23歳)。16歳の時に教会に




②2年の挫折の日々。暗夜から過ぎ越し、アルゼンチンの牧者へ(1990-1992年、54-56歳)。仲間から理解されず、誤解される生活を送る。それがきっかけでドイツへ派遣される。A・カラシーノ枢機卿がヨハネ・パウロ二世教皇に手紙を出し、地元の庶民のために尽くした経験が豊富で牧者として補佐司教として任命するのが相応しいとのこと。1992年にブエノスアイレスの補佐司教となる。

③6年の教皇職の中で、使徒的勧告「福音のよろこび」などを記した。また、家庭と地球の関わりを強調している(2013-19年、76-82歳)。

尚、教皇は日本で奉仕した

筑後地区レクリエーション大会 小さな地区、大きな一致

9月16日(月・祝)、「大刀洗勤労者体育センター」にて、第4回筑後地区信徒親睦レクリエーション大会が、筑後地区宣教司牧評議会(会長 竹森勇神父)主催で開催された。筑後地区6教会より主任司祭を含む200人弱の参加があ



ダンス?いえ、準備体操です

イエズスの先輩ベトロ・アルベ神父(元イエズス会総長)から影響を受けていたと言われる。聴衆は師の話に食い入るように耳を傾けていた。(報告 武蔵ヶ丘教会 黒丸雄二)

り、会場は熱気に包まれた。開会式では、会長の竹森神父が「たくさんの方々の参加ありがとうございます。ケガなどないよう楽しんでください」と挨拶した後、有意義な一日となるよう全員で祈りを捧げ、準備体操。しつかり体がほぐれ、競技に入った。競技は、6教会が各々競技内容を準備などを受け持ち老若男女問わず参加できる競技ばかりで、競技、応援など大歓声の中プログラムが進められ、得点、順位が発表されるたびに歓声に包まれた。


昼食後の競技前には、教皇様来日や筑後地区に係るOX(マルバツ)ウルトラクイズを全員参加で開催。競技プログラムも大盛況のなか、ケガ人もなく無事に終了し閉会プログラムへ。当日は敬老の日でもあり、70歳以上の人生の先輩方への心ばかりのお祝いをを行った。記念のお菓子の贈呈に続き、愛苦会のシスターと子どもたちによる聖歌のプレゼント。担当者の当日の思いのこもった歌、心にしみ渡る歌声を届けることができた。場も和んだ後、大福引き会に移り、先ほどの競技時の大歓声が再びわき起こった。本年度は新米の協賛もあり、とても豪華な景品のラインナップ。閉会の最後は、今日の集いを神様に感謝し、派遣の祝福の後、解散となった。

小さな地区ではあるが、これからも一致団結し、いろいろなことに取り組んでいきたい。(報告 大牟田教会 田中敏行)

司祭志願院 盛り上がったオープンコレジオ

10月12日(土)から13日(日)まで、第3回目のオープンコレジオが開催された。今年は、沖縄、福岡、そして長崎小神学校から合計8人が参加した。初日は、福岡カトリック神学院で、神学生とともにソフトボール、サッカーに汗を流し、夕食後は、肝試しやゲームで盛り上がった。翌日は神学院聖堂にてミサを捧げた後、コレジオに場所を移し、召命のことなど分かち合いが行われた。最後は、これまで参加のない他教区からの参加を祈りながら散会した。

この集いを企画した神学生は、「積極的に司祭召命を考えているわけではないけれども、神学生と触れ合うこのような機会を通して、自分の生き方を神さまと人々のために捧げようとする若者が出て来ることを祈りながら今後も集いを続けていきたい」と語った。尚、オープンコレジオは、司祭召命が減少する中、一人でも多くの学生や社会人に召命のきっかけとなれば、という目的で企画されている。



熊本復興の光 「教会音楽の夕べ」

島崎教会 高木光行

9月23日(月・祝)午後3時より第九回「教会音楽の夕べ」が開かれた。この集いには司祭、修道女、信徒及びその友人、知人、教会の近隣に住む一般の人々約90人が集った。毎年、開かれるこの「音楽の夕べ」は今年で九回目を迎えることとなった。この名には震災から三年半が経ち、これからの復興を見守り、又社会一般の中で地域の人たちに何かと少しでも心の支えともなれるのであればと言う熱い願望がそこに込められている。

今回も前半の部でグレゴリオ聖歌サルヴェ・レジーナが合唱された。この曲は、聖フランシスコ・ザビエルが東洋の地の果て、日本に向け出港したその時、航海の安全と

「主よ：私の手をお望みでしたら 今日 私のこの手をお使いください。」

最後に、「教会音楽の夕べ」の光を放つ代表の曲マザーテレサの祈り「私をお使いください」が合唱された。

「主よ：私の手をお望みでしたら 今日 私のこの手をお使いください。」

◆原稿は4000字程度
◆投稿先・福岡カトリック司教館
FAX 092-523-2152
メール cdf.kohou@nifty.com
皆さんの声をお待ちしております。

☆主は「たとえ」で語られた3

澤田豊成 著

本書は、主に、受難と死のときが迫っていることを悟っておられたイエス・キリストが世の終わりに「たとえ」で語られた箇所を取り上げ解説する。

サンパウロ発行
税込1320円

BOOK 読み専科

☆フランシスコ教皇さまへ 質問と絵 世界の子もたち 答え フランシスコ教皇 訳 片柳弘史

世界中の子もたちが教皇へ宛てた手紙。かわいらしいイラストに添えられた純粋で難しい質問に、フランシスコ教皇がやさしく、キチンと答えます。小学校中学年。総ルビ付

ドン・ボスコ社発行
本体1200円+税

◆ ◆ ◆
☆教皇フランシスコがあなたに知ってほしい10のこと

メデイアと民衆の心に強い印象を与える教皇フランシスコ。教皇のビジョンや価値観そしてあなたへのメッセージを親しみをこめてわかりやすく述べています。

女子パウロ会発行
本体600円+税

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 森山工務店

ヨゼフ 森山 新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い

セント・ポール FUKUOKA

キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM10時30分~PM5時
日曜/AM11時~PM2時(定休日水曜・祝日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標

信じる喜びから 伝える喜びへ

聖書週間 11月17日～24日
貧しい人のための世界祈願日 11月17日
☆11月24日の主日ミサ時間について2面に掲載
カテドラル大名町教会では11月24日(日) <13時半から>と25日(月) <15時半から>に教皇ミサの同時中継を行います。
☆ベトナム語の『聖書と典礼』が新しく発行されます。詳細は2面に掲載。

作品展 アシジの聖フランシスコと聖クララの道

油絵と版画の聖フランシスコ、聖クララ、アシジ関連の作品を展示。教皇来日記念企画展と同時開催
日時:10月19日(土)～12月3日(火) 12時～17時(金曜日は20時まで、水曜休)
場所:カトリック大名町教会 1階講堂

聖マリア学院大学公開講座「地球とともによく生きる」

日時:11月9日(土) 13時半～15時 無料・要申込
場所:聖マリア学院大学(久留米市)
講師:イ・ハヌン神父(浄水通・茶山教会)
問合せ:0942・35・7271
聖マリア学院大学地域貢献センター(黒木・久光)

福岡地区信徒使徒職協議会主催 『学びの場』

テーマ:教皇フランシスコと第二バチカン公会議～行動する教会を目指して～
日時:11月10日(日) 13時～15時
場所:カトリック大名町教会 2階大聖堂
講師:森山信三神父(福岡コレジオ院長)
問合せ:090・6775・4268(青木)

『聖書週間』から『聖書習慣』へ

レクティオ・ディヴィナへのまねき
日時:11月17日(日) 14時～16時
場所:カトリック手取教会信徒ホール
講師:レナト・フィリップニ神父(教区養成教化委員長・ザベリオ宣教会)
内容:聖なる読書の紹介、解説、みことばを祈る実践

教区信徒養成部主催 聖書講座

テーマ:ヨハネ福音書を読む
日時:11月17日(日) 14時～16時
場所:カトリック大名町教会
講師:森山信三神父(福岡コレジオ院長)
参加費:100円 ※旧新約聖書を持参のこと
問合せ:080・5246・1816 島山

福岡市民クリスマス 2019

事前合同祈禱会
日時:11月25日(月) 19時～20時
場所:カトリック大名町教会 大聖堂
福岡市民クリスマス
日時:12月9日(月) 19時～21時
場所:福岡市民会館
メッセージ:横田法路牧師 コンサートあり
※詳細は各小教区に配布のチラシを参照

小郡教会 平和週間企画アート展とコンサート

11月3日～17日、小郡教会では「平和週間」を行い、講演会、コンサート、アート展示を行います。詳しくは各教会に配布されているチラシをご覧ください。
問合せ:0942・72・3256 小郡カトリック教会

舞台劇「五島崩れ一橋の島のアヴェ・マリア」が12月13日、博多座(福岡市博多区)で上演。芥川賞作家、森禮子氏の同名小説の舞台化。チケット購入・割引については各教会に配布の案内をご覧ください。

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板 会合と催し

11月のこよみ

福岡黙想の家のご案内 11・12月

11月 2日(土) ロザリオの会
3日(日)～4日(月) 研修会「カトリックの死生観」
16日(土) ザビエル聖堂6周年記念講演会
23日(土) 講演会「謝る」ということ
24日(日)～25日(月) 黙想会
30日(土)～12月1日(日) 聖マリア在俗会
30日(土)～12月1日(日) 幼きイエズス修道会
12月 3日(火) ザビエル聖堂追悼ミサ
7日(土) ロザリオの会

※お電話またはメールでお問合せください。
*宗像市名残1056-1 ☎0940・32・3222 FAX0940・32・3385
Email: f-mokuso@fmokuso.com

本紙2面下広告に来往神父の講演会・研修会・黙想会情報を掲載

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

※祈りの集い

年間テーマ:「祈り」神秘体験～キリストによって神との出会い
日時:11月14日(木) 10時～15時
内容:「わたしはアルファであり、オメガである」(黙示録1・8)
指導者:フランコ・ソットコルノラ神父(聖ザベリオ宣教会)
問い合わせ先:真命山諸宗教対話・靈性交流センター
次回:12月12日(木) マタイ18・20
☎0968・85・3100 FAX0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町楠浦1391-7・E-mail shinmeizan@gmail.com

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時:11月2日(土)・16日(土) 10時～11時45分
12月7日(土)・14日(土)、21日(土) 10時～11時45分
場所:カトリック大名町教会小聖堂

1日(金) 諸聖人
2日(土) 死者の日
3日(日) 年間第31主日 不動山殉教顕彰記念ミサ
4日(月) 聖カロロ・ボロメオ司教 神学院祭
5日(火) †B.ガラハ(2014年 島崎教会)
6日(水) †K.ウーリック(2013年 泰星学園)
8日(金) †M.マッコンネル(2005年 手取教会)
9日(土) ラテラン教会の献堂
10日(日) 年間第32主日 八代殉教祭 和田墓地ミサ・納骨式
11日(月) 聖マルチノ(ツール)司教
12日(火) 聖ヨサファト司教殉教者
16日(土) †アントニオ浦口均(2007年 老司教会)
17日(日) 年間第33主日 貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(~25日)
†セバスチアノ川添猛(2017年 帯山教会)
福岡カトリック神学院司祭團養成者会議
聖マリアの奉獻 福岡カトリック神学院感謝祭
聖セシリアおとめ殉教者
フランシスコ教皇来日(~26日)
†E.ウィリアム(2016年 古賀教会)
王であるキリスト
福岡市民クリスマス事前合同祈禱会
†R.マグリ(2008年 聖マリア病院)
†M.C.ハイメ(2003年 トラビスチン)
聖アンデレ使徒
†アンジェロ春山勝美(2007年 高宮教会)
【12月】
1日(日) 待降節第1主日 宣教使召命促進の日(献金)
3日(火) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司教 教皇来日記念企画展閉幕
7日(土) 聖アンブロジオ司教教会博士
8日(日) 待降節第2主日

◆ 福岡
●聖霊による刷新福岡祈りの集い(日時)毎週月曜11時～12時半(場所)大名町教会1階(内容)賛美と感謝の祈り・聖書の分かち合い(問合せ先)☎092・5221・2503 蓮尾
●聖ドミニコ信徒会集會(日時)11月2・16日(土)15時～17時(場所)箱崎教会(内容)福音の分かち合い(指導)アントニオ李神父(ドミニコ会)(問合せ先)☎092・651・3867 箱崎教会
●キリストの教え・聖書を中心に学ぶ会(日時)11月5・12・26日(火)14時～16時(場所)大名町教会・信徒会館(講師)大山悟神父(福岡カトリック神学院)(問合せ先)☎092・871・4943 大山神父
●福岡チエナクム(司祭の MARIA 運動)(日時)11月8日(金)10時30分後(場所)高宮教会(指導)パウロ神父(カプチン・フランシスコ修道会)(問合せ先)☎090・7468・3631 西田
●死者ミサ・「家庭の友」読書会(日時)11月9日(土)14時から(場所)聖パウロ修道院(問合せ先)☎092・5441・3730 松山※『家庭の友』持参
●レジオマリエ福岡クリア(日時)11月10日(日)14時～16時(場所)高宮教会(問合せ先)☎090・9654・9969 吉
●震災のための祈りのリレー(日時)11月11日(月)ミサ6時半から(クララ会聖堂)夕の祈り(テゼの祈り)19時から(場所)小郡教会(問合せ先)☎070・2820・9613 Br.阿部(パウロ会)
●師イエス祈り会(日時)11月15日(金)10時30分後(場所)高宮教会・小聖堂(問合せ先)☎090・7468・3631 西田
●ザビエル聖堂献堂6周年記念講演会(日時)11月16日(土)10時半～15時(場所)福岡黙想の家ザビエル聖堂(講師)中村克徳神父(御受難修道会)※参加費無料・午後には献堂記念ミサ、昼食は各自用意ください(問合せ先)☎0940・32・3222 福岡黙想の家
●グレゴリオ聖歌を歌う会(日時)11月19日(火)11時から(場所)聖クララ寮(内容)レクイエム(死者ミサ)(問合せ先)☎096・380・5686 堺
●福岡ホスピスの会・がん哲学外来「ぬくみカフェ」(日時)11月23日(土)14時～16時(場所)小倉教会(内容)ミサと茶話会(問合せ先)☎0

●北九州
◆北九州召命を共に祈る会(日時)11月14日(木)14時から(場所)小倉教会(内容)ミサと茶話会(問合せ先)☎0949・24・9905 藤井
●小倉祈りの集い(日時)11月29日(金)13時半～15時(場所)小倉教会信徒会館2階(内容)「みことばを味わう」賛美と感謝の祈り(問合せ先)☎090・3985・5209 松田
●熊本地区召命を共に祈る会(日時)11月21日(木)10時から(場所)手取教会(内容)ミサと話し合い(問合せ先)☎096・368・2825 健軍教会・浦川神父
●聖霊による刷新熊本祈りの集い(日時)毎週金曜10時半～12時(場所)手取教会信徒会館(問合せ先)☎096・368・2825 健軍教会・浦川神父

お知らせ
次号の教区報2019年12月号は教皇来日特集となるため、1週間遅れての発行となります。12月8日にお手元に届くよう発送いたします。
編集後記
ベトロ岐部と187殉教者の列福を記念して発行された『恵みの風』に帆を上げて。現代の福岡教区も聖霊と教会共同体の信仰の「恵みの風」に運ばれて歩んでいる。(C)

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリーホール
薬院・油山・野芥・小田部・今宿 馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店
0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院 総合周産期医療センター
地域医療支援病院 がん診療連携拠点病院
救命救急センター 地域災害拠点病院
千830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

聖地イスラエル巡礼の旅 10日間
旅行期間:2020年3月22日(日)～31日(火)
同行司祭:中村 彰 神父(西新教会)
旅行代金:15名参加 589,000円
申込先:阪急交通社 福岡団体支店
TEL 092-761-8833 / Fax 092-761-8666
担当 山中・宮原
申込締切:12月25日(水)

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!
http://www.paulus.jp
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために...
サンパウロ福岡宣教センター
10:00~18:00(月~土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分 *駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930